会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回体制整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年10月22日（金）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | 福岡 リファレンス駅東（オンライン開催併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　　　員：成底　敏、岡村　慎一、泉田　優、山根　大助、柳田　祐大　　計5名（オンライン参加）小田　政江　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. A類～D類のコンテンツ作成、ならびに実証検証（成底）

【分類ごとの概要】・A．知識系分野　・菊田氏と打ち合わせをし、理解を深めるため、菊田氏には条文の背景、専修学校の立ち位置など専修学校の制度について、前段の部分30分～40分ほどで話していただくという案が出た。コンテンツに関しては、手引書のポイントを説明するという案が出た。（山根）・麻生塾の松田先生はご自身で申請業務をされており、自校でもスタッフディベロップメントで導入研修などもされているので、協力を打診ているので、コンテンツのスクリプト制作からお手伝いいただきたいと考えている。（小田）【意見等】・オンライン講座で40分は長いのではないか。菊田氏に話していただく内容は、資料からピックアップしただけでは読めばいいということになってしまうので、専修学校制度の成り立ちや専門士、職業実践専門課程、就学支援などのターニングポイントについて質問形式で問い、10～15分ほど菊田氏に答えてもらった後、その項目についての説明を付け加え、合計15分ほどのコラムを4本ほど、というような構成にできると菊田氏に協力いただく意義がでてくるのでは。（岡村）→内容、構成について同意。ナレーションについては、予算範囲内でもあるので、訴求効果を高めるためにもプロに依頼したほうが良い。またコンテンツ作成の外注先としてデジタルハリウッドには打診をしている。（飯塚）→台本作りの際、松田先生にご協力いただき、ナレーションについてはプロを検討する。コンテンツ制作のために台本と絵コンテを作成。（成底）【本日の決定事項】・菊田氏の話していただく項目のピックアップ（次回打ち合わせまで）・コンテンツに関しては、ベース資料を作成（11月中旬～下旬めど）、話す内容に関しては松田先生に協力いただく。・B．マネジメント分野（成底）・セミナーはⅠ部が東京テクニカルカレッジの白井校長の事例紹介をオンラインで実施、Ⅱ部は対面にてグループディスカッションをする形式で12月上旬開催を考えている。・白井先生との打ち合わせでは、質保証に関する調査研究者会議で使用された、小山学園で取り組まれてきた内容の資料をいただいたが、非常に精度の高いPDCAを回されており、レベルが高すぎるので、受講者とのギャップが大きいと予想する。事例紹介をしていただくが、導入にあたっての課題点や背景などについても話していただけるように伝えている。来週2回目の打ち合わせを実施するので、打ち合わせ後報告する。【意見等】・ヒアリングについては報告書を作成するのか。（高岡）→ヒアリング調査については必要。（飯塚）→東京テクニカルカレッジの精度が高すぎるので、他の事例調査は行わなくてもいいのではないかと考えている。白井校長には理想と現実のギャップの埋め方について中心的に話していただき、課題の克服の仕方の参考に繋がればと考えている。Ⅱ部の実施方法については、ワークショップにするかグループディスカッションにするか、皆さんのご意見を伺いたい。（成底）→到達目標を学校運営責任者が必要とするマネジメント能力と定義するなら、コマシラのチェック・フォローの部分は教員のレベルになるので、そこまで求めるという話は負担感になるので強調しないほうがいい。管理層の役割として、三層構造の繋がりをどのようにチェックするかを話してもらってはどうか。体制整備の目標としては情報公開や人材育成をどのように繋げていくかマネジメント能力として問いているテーマなので、あまり広げないほうがいいのでは。（岡村）・スタッフが持つべき能力なのか。白井校長の話はスタッフにはかなり難しい。A～D類についてスタッフのポジションの認識を共有したい。（飯塚）→PDCAを回すために必要なセミナーがB類ととらえている。責任者が教務系か事務系かでマネジメントへの興味の持ち方が違う。責任者には両者が入るので、到達目標はしっかり決めたほうが良い。実際にPDCAを回すのは現場で、責任者はPDCAを回す仕掛け作りが一番の役割なので、そこが落としどころというイメージを持っている。（成底）・立場によっていろいろなマネジメントサイクルがある。教員のマネジメントサイクル、それをまとめるカリキュラムを整理統合してチェックする学科長のマネジメントサイクル、学校としての教育・経営のマネジメントサイクルなどがあり、職業教育マネジメントでいうのであれば、経営の部分はおいてみませんか、というのが今三菱総研で出しているマネジメントサイクル。繋がりをどのように考えているか、また、体系が見えていないと内部監査もできない。この視点を養っていけると良いと考えている。専門的な知識がなくても、各マネジメントサイクルに対してチェック・問いかけができるかが管理者に必要。職業教育マネジメントに入っていく中の教学マネジメントと考える。（岡村）→岡村先生のおっしゃるように対象者は教育運営責任者ということで認識を統一できれば白井校長の話も意義がある。（飯塚）→経営的な側面はもちろんあるが、職業教育の体制整備を考えると、資料内の三層構造のうちの学科と授業の教育部分に焦点を当てられればと考える。Cのマーケティングが広報と情報公開を、Bは教育と情報公開を繋げるという仕組みではないか。（岡村）→対象は学校運営責任者またその後継者。B類で着目するのは教育マネジメントに特化した部分で学校運営責任者が理解すべき内容を伝える。（成底）→分かりやすく言うと教育の質を維持向上させるためのマネジメントということか。階層的には校長までか。（泉田）→経営・学科・授業という三層構造になっていることを理解していただき、それぞれが情報公開の繋がりをどう学校運営に活かしていくか、その先進事例を一例として紹介し、自校を振り返っていただく。人材育成を考えた時、三層構造を縦で見ていくことが必要になっている。白井校長に話していただく前に、三菱総研の調査結果を紹介するなど、このセミナーは全体の中で弱いCの部分を強化することが目的だということを説明し、その事例紹介となると一本背骨が通る。また目指すべき方向性が見えてくると自校でのアクションプランが見えてくる。（岡村）→この流れだとⅡ部は対面でグループディスカッションとなるか。（飯塚）→自校の状況の分析、目指す姿を考え、その課題を持ち寄って議論できるならディスカッションも良い。（岡村）→Ⅰ部は対面にするか。もしくはオンデマンド配信で幅広く受講できるようにするか。（飯塚）→Ⅰ部の三菱総研の調査結果、白井校長のセミナーはオンデマンド配信、Ⅰ部を受講した上でⅡ部は対面かオンラインでグループディスカッションという形式でどうか。（成底）→Ⅱ部でファシリテーターを付け、白井校長に参加いただき、総括でコメントをしていただくなどすると、ディスカッションだけでも参加する意義が出てくる。（岡村）→受講する立場からするとⅠ部とⅡ部はセットのほうが良いが、Ⅱ部のディスカッションのための事前準備が必要。（柳田）→Ⅰ部を受講して感想を持つだけでは意味がないので、自校で目指すマネジメントシステムの流れ、チェックリストが作れるような教材が必要になる。今年度はⅠ部のみにし、白井校長の話に合わせながら自校とのギャップをどのように捉えているかチェックができるようなアンケートを行い、アンケート回答した方にはアンケート集計をフィードバックし、次回のセミナーは優先的に案内するなどすると受講者のメリットにもなるし、次年度のグループディスカッションにも繋がる。（岡村）→栁田先生にアンケートシート案の作成をお願いしたい。（成底）→了解。（栁田）【本日の決定事項】・セミナーのターゲットは教育マネジメントとし、受講対象者は教育運営責任者とする。・今年度のセミナーはⅠ部のみとし、次年度Ⅱ部を開催する。・Ⅰ部は白井校長、三菱総研に講師を依頼する。・アンケートシート案の作成。（担当：栁田）・三菱総研との打ち合わせについては日程調整し後日連絡。（担当：成底）・C．情報公開などの手法・マーケティング分野（成底）・先週から情報公開についてのヒアリング調査を実施している。・昨日まで実施したヒアリング調査の質問項目に対する回答をざっくりまとめた。・(2)効果を上げている手法・広報制作物は、三友学園ではCAREER VISION、龍馬学園では学園報「Ryomajin」や各校の「HOT NEWS」、穴吹学園ではカリキュラムブック、YIC学院の学科説明のハンドアウトは、かなりの効果が出ており、3年制課程はなかなか学生数が2桁にならなかったが、資料を渡すようになってから、20数名の学生が入学したとのこと。成果を見ると魅力的だと考える。麻生塾ではZoomを使ったOC、YouTubeによる視聴型のオンラインコンテンツ、対面の3通りのOCを実施しており効果が出ているが、この手法は他県からの入学者が多い麻生塾ならではとも取れる。麻生塾では教育理念、教育目的、育成人材像に基づいてDP・CP・APを策定し、PDCAを回し活かしていく運営が魅力的だと感じる。・内容はBになるが3Pの策定の仕方、PDCAの回し方は麻生塾ではプロセスがしっかりしていると感じた。RiSEという情報誌は学生が制作しているもので面白い内容だが、学校が広報のために制作しているものではない。YICも麻生塾も広報物は手作り感満載で良いと感じた。自校の強みを共通の言語化にしたことが副産物を生み出しているということも印象に残った。（泉田）・三友学園では自分達がやっていることや3Pに関しても悪い部分は認めるなど素直に公開しており、教員にとってはプレッシャーがあるとは思うが、非常に信頼できる運営だと感じた。龍馬学園では歴史のある「Ryomajin」、「HOT NEWS」ではリアルタイムにいい結果に向けて情報の更新、また地域連携を絡めながら冊子を活用して情報を伝えて行く活動が印象に残った。穴吹学園のカリキュラムブックはすごいと驚いたが、保護者や学校の先生にとってはいいが、高校生向けと考えると難しい表現もあるので、伝え方をどのように柔らかく伝えて行けるかなど課題があると感じた。一方(1)にもあるが就職先企業からの評価が高く、カリキュラム編成委員会や学校評価委員会を考えると、外部との連携という場面で活用できる広報物だと感じた。（栁田）・現在ヒアリング調査報告書をまとめている。基本的な情報と調査時の写真を掲載している。調査内容では青文字は文書で回答いただいた内容、赤文字は口頭での説明内容を記載している。穴吹のカリキュラムブックを例にとると、どのような意識で作ったのか、運営体制などの完成までのストーリーなど、研修で話していただきたい内容が報告書で伝わるように作成している。（成底）【意見等】・配信方法によるがセミナーでは調査した学校全てに講師をお願いするか、学校を絞るのか、構成の仕方についてはどうか。（成底）→業界内のみのクローズドのものが良いと思うが、それぞれ特徴のある広報物を制作されているので、15分程度で全校にやっていただいても良いと考える。（泉田）→当協会では15分程度の講義、その後ディスカッションで60分程度のオンラインセミナーを実施したが、かなりの効果があった。シリーズものにし時間帯は17～18時、定員数は10名程度。受講者管理はSlackで行った。ただしディスカッションにはファシリテーターが必要。またC類のセイナーの場合、広報物を受講者にどう提供するかが課題。（飯塚）→対象者が学校運営責任者なので、広報物の制作にあたっての苦労や課題をディスカッションで掘り下げられると良い。広報物は手に取ってセミナーを受けたい、となると対面が良い。講師はオンラインも可とし、受講者のみ対面とするか。時間を考慮すると3校ずつ半日の2回、1日目は午後、2日目は午前で実施すると受講しやすい。（成底）→調査時のようにパネルディスカッション的に実施すると、受講しやすいのではないか。講師にとっても負担が少ない。（高岡）→パネルディスカッションの進行役は八木先生に依頼してはどうか。ただパネルディスカッションだと質問が出にくくなると感じるので、いったん15分講義プラス45分ディスカッションで組み立ててはどうか。（成底）→賛成。（全員）【本日の決定事項】・セミナーは対面開催とし15分講義プラス45分ディスカッション、3校ずつ半日の2回、1日目は午後、2日目は午前で実施することを予定する。・セミナー開催地は福岡とする。・講師は基本的に対面、やむを得ない場合オンラインとする。・各校テーマをピックアップする。・D．教育系分野（成底）・10/15に植上先生と打ち合わせをし、時期を年明けとし承諾いただけた。・内容について再度植上先生と打ち合わせをするので、後日報告する。　　4. 次回委員会について・後日調整する。 |
| 配布資料 | ・211022 委員会資料・【概要】広報活動及び情報公開に関するヒアリング調査報告 |

以上